

## 2024年度 公立大学法人大阪第9回役員会議事要旨

日時：2025年2月12日（水）9時30分～10時45分

場所：UR森之宮ビル3階 役員会議室

構成員：福島理事長、辰巳砂副理事長、酒井理事、東山理事、櫻木理事、高橋理事、重松理事、  
中村理事、宮部理事、帯野理事、藤本理事、藤沢理事(オンライン)

監事：白井監事、前田監事

陪席者：露口本部事務機構長、大久保本部事務機構次長、石井本部事務機構次長、  
富宅医学部・附属病院事務局長、千田総務総括部長、柴山企画総括部長、船野学長室長、  
石田総務部長、森岡企画部長、寺田医学部・附属病院事務局事務部長、片山総務課長

### 【審議事項】

#### 1 地域大学のインキュベーション・産学融合拠点の整備事業への申請について

担当理事より、地域大学のインキュベーション・産学融合拠点の整備事業への申請について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・成果目標の「令和11年度までに大学発スタートアップを75件以上創出」とは、どの程度の現実性があるのか。  
→1 採択大学だけに課されるものではなく、日本全国の採択大学で75件以上となっており、本学も当然ながら貢献しなければならない。
- ・共創資金は設備投資なので自走することが求められる。5年間での成果に対する具体的な目標値は求められるのか。  
→募集要項が3月中旬以降に公開されるが、以前の同様の事業においても産業効果等の試算を求められたので、同様であると予測し記載内容について検討を始めている。
- ・補助金の不動産部分について、学内のスペース的に新設の建物が必要なのか。  
→ライフサイエンス系のためBSLや動物実験施設を整備予定だが、微生物や細胞等を扱う以上は物理的に遠方では法規制上難しいため、キャンパス内での実施が望ましい。  
また、中百舌鳥キャンパスでは創薬科学研究科の設置や高専が移転予定であることから、非常に施設が不足している状況である。予算計画の収入部分については、生物資源開発センター（C8棟）のスペースチャージを前提とし、新設の建物でもスペースチャージでの収入を得る。
- ・経済産業省の補助金なので、国内外の企業が集まり、経済的かつ産業的に成長する余地があることを申請書に記載いただきたい。また、設定されたKPIに合わせるのでは自由な研究や開発ができないため、逆に大学として既に検討済であるような上の視点を心構えていただきたい。

### 【報告事項】

#### 1 開設予定の主な施設について（看護新棟、BSL3、スマートエネルギー棟）

担当理事および副理事長より、開設予定の主な施設について（看護新棟、BSL3、スマートエネルギー棟）説明がなされた。

<主な意見等>

- ・BSL3の研究内容で、鳥インフルエンザは対象にならないのか。

→確認のうえ、後日回答することとした。

(後日回答内容) 高病原体であればBSL3での対応となるが、羽の散乱による空調機器メンテナンスのランニングコストを考え、現時点では対象としていない。ただし、フェレットでも鳥インフルエンザの研究等はできること等を踏まえ、本学の強みを生かした施設に設計している。

- ・共創パートナーズについて、理系のイメージが強いが文系でもメリットはあるのか。

→本学は、人々のウェルビーイングを目指すための研究も行っており、このような総合知を活用するには人文社会科学分野は重要である。学生と企業が接する機会を大学側から提供し、文系学生との接点を求める企業にも参画いただくことで、産学官民の共創に繋がってきたい。

## 2 経営学研究科CSV経営研究プログラム設置について

担当理事より、経営学研究科CSV経営研究プログラム設置について説明がなされた。

## 3 健康長寿医科学センター病院開設にあたってのコンセプト等

担当理事および健康長寿医科学センター病院長予定者より、病院開設にあたってのコンセプト等について説明がなされた。

### 【その他事項】

なし

### 【備考】

オンライン会議システムを併用した役員会は、適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認しており、終始異状なく議題の審議等を終了した。

以 上